



除幕される悲母地藏菩薩



瑞巖寺百三十世住職起雲軒老大師を導師とする開眼供養



東日本大震災物故者追悼法要・参集僧侶による大般若經の転読

宗教工芸新聞平成 26 年 4 月号掲載



開眼された悲母地藏菩薩と京仏師富田睦海氏

悲母地藏菩薩開眼法要

瑞巖寺（宮城・松島）三千体わらべ地藏の象徴仏

平成二十三年三月十一日二時四十六分から三年目

「被災者から復興者へ」と、制作者の京仏師富田睦海氏が挨拶

三月十一日、瑞巖寺陽徳院（宮城県松島町）において東日本大震災物故者供養追悼法要と悲母地藏菩薩開眼法要が営まれた。

東日本大震災以降、富田氏を中心になって取り組んできた「わらべ地藏を被災地に」プロジェクトにより約三千体のわらべ地藏が彫られ、被災者の方々に手渡されてきたが、今回開眼された悲母地藏菩薩はわらべ地藏の象徴仏。胎内には無作

三月十一日、瑞巖寺陽徳院（宮城県松島町）において東日本大震災物故者供養追悼法要と悲母地藏菩薩開眼法要が営まれた。

三月十一日、瑞巖寺陽徳院（宮城県松島町）において東日本大震災物故者供養追悼法要と悲母地藏菩薩開眼法要が営まれた。

富田睦海氏挨拶
「震災の年に丁度娘が生まれたこともあり、震災は私に大きな衝撃を与えました。震災によって時間が止まったままの方がたくさんいることを思うと私は居ても立ってもいられない気持ちになりました。
被災された方の大きな悲しみを何かに託せないかと考え行動する中で、私の母校でもある花園大学の若手僧侶の方々の協力の中で、わらべ地藏を彫って頂く活動が始まりました。現在までに約百カ所で行われ、約三千体のわらべ地藏が彫られました。
わらべ地藏を彫り、被災者の方々に手渡すこと

で笑顔を作れてきたのではないかと思います。気持ちの切り替えが出来たという声も聞いて参りました。
そして可愛らしいお地藏様の集大成として悲母地藏菩薩を制作し、今日の開眼を迎えました。
悲母地藏はわらべ地藏の象徴仏となりますが、被災者の方がこれから復興者となっていくことを見守って行かれることを祈りながら、優しさと力強さを表現しました。
被災された方々が苦しみや悲しみを抱えながらも、なんとか前に進むステップになれば、そして悲母地藏が震災のことを後世に伝えて行くことを今日の開眼の中で祈りたいと思います」